［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日 平成　19年 10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0372500496
法人名	社会福祉法人　胆沢やまゆり会
事業所名	グループホーム　ぬくもりの家
所在地	岩手県奥州市胆沢区南都田字大持30番地 （電　話）0197－46－5100

評価機関名	財団法人　岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	10月11日

【情報提供票より】（　19年　8月　5日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　14年　4月　25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	9　人	常勤　5 人，非常勤　4 人，常勤換算　7.3 人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	22,200　円		その他の経費（月額）	41,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900円		

（4）利用者の概要（　8月　5日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		1　名	要介護2	1　名	
要介護3		7　名	要介護4	名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	82.4 歳	最低	79 歳	最高　86 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	国保まごころ病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

胆沢町のほぼ中央部に位置し、公設民営の社会福祉法人「胆沢やまゆり会」が運営する総合福祉施設である。パートを含む全職員で1年かけてグループホーム独自の「介護理念」を作成し、日々の介護に活かす努力がされている。ホーム内に掲示が多くされており、目に入りやすい。総合性・地域性を活かした日々の取り組みに、職員の努力が感じられ、入居者の生活ぶりに落ちつきが見られた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	入居時には写真や言葉で説明をし、家族に対しては請求書送付時に写真と職員の手書き（印刷物）にコメントを記入し、近況を報告しており、改善がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	外部評価に合せてパートを含む全職員で、自己評価を行ない、職員会議で検討し、共通認識を持っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	委員の中にはグループホームに対しての理解が浅い方もあり具体的な意見は少なくホームとしてもまず理解を深めてもらう様に取り組んでいる。今後もっと広い範囲の方々に委員になっていただき地域性を高めていきたいと望んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	総合福祉施設であることが、家族の安心にもつながっており、苦情等はない。要望はあるが、対応可能なものばかりなので、すぐに対処している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	近隣45戸全体を消防協力隊として結成し、そろいの半天を作り、ホームも1会員として参加し地域との連携を図っている。小学校や地元の行事にも積極的に出向いて参加をしている。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H19.3.5 グループホーム独自の理念を全職員で作成した。３つの幸せを唱い、今までより地域の存在を大きく歌い上げている。ホームの目につきやすい場所に掲示されてある。法人カラーのピンクが暖かい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	１年間かけて全員で作り上げた理念なので一人ひとりの職員が自分の物としてとらえ、日々の介護に生かす努力がされている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設内・病院の交流は盛んに行われている。又、小学校との交流を大事にし、行事の相互交流を行っている。ホームの行事等は地区内の回覧でお知らせして、参加をしてもらっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護度の変化によって浴槽の改善が急務であり、現在横板、踏み台等を発注している。常に共通の認識を持って、日々の介護に生かす姿勢がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まで改善点等の指摘は無いが、更にホームを理解してもらい、今後メンバーも幅広い地域の人達（交番・商店関係）に参加を呼びかける計画がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	一人で外出した利用者を法人の他施設の職員に通報を受けたり（人違いだったが。）、包括支援センターに相談し、助言を受けている。区の担当者とも情報の共有を図っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の外部評価の課題項目であり、それを踏まえて１ヶ月１回の写真とコメントで報告をし、家族から喜ばれている。特にも遠方の家族との意思の疎通が改善された。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートにより「家族会」は必要とされず、ホーム側から年１回家庭を訪問したり、写真とコメントを入れた便りを郵送している。要望可能なものは全て受け入れ、対応をしている。最近家族より感謝の声がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来調理員１人が交代しただけで、職員は固定され日々の介護にあたっている。夜勤が出来なくなったパートさんには、日勤で働けるよう対応した。		勤務を終えて帰るときは「行って来ます」、朝勤務に入る時には、「ただいま」の声かけは利用者にとって優しい配慮と感じる。今後も継続を期待したい。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修には積極的に参加が出来、本人の希望も可能である。ホーム主任はドイツ，デンマーク，スウェーデンへの海外研修も経験して、日常業務に反映させている。		休日を利用し、個人で研修を受講するスタッフもおり、個々の積極的な介護に対しての取組が感じられる。今後もよりよいケアに思いを持って続けていって欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南のグループホーム間で職員の相互交流研修を行っている。県全体・県南と隔月で研修会に参加し研鑽を積んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人も家族もホームを「終の栖」とはとらえていない。「ちょっと来て」「ちょっと帰れる」的に考えている。居室に古い写真等がもっと欲しいと思っているが家族の理解が進まない。職員は機会をとらえて家族に声かけをしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	耕運機を使って畑仕事をしたり、野菜作り、草取り等、自ら進んで畑に向かう。「ひめかゆ」への小旅行では運営委員さんも参加してくれ、家族風呂を利用して楽しい時を過ごした。外出時は外食をして楽しむ事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しかけには応じるが、理解が出来ない入居者が２人あり、本人の様子を観察する事で、食べること、トイレ等には対応は可能である。家族面会の多い人、少ない人に偏りがあり、家族の協力が望まれる。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者それぞれに担当を決めてケアプランを立てている。家族の意見を十分取り入れ、レベルをどこに持っていくか検討している。グループホームらしく「その人らしさ」の維持に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の多くが「帰宅願望」が強く、状態の変化に対してのケアプランの見直しが不十分のこともあり、今後の反省点である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期通院・緊急時は「まごころ病院」へ受診でき、法人としての多機能性を活用できるので心強い。通院は原則家族同伴であるが、遠方家族の場合は全てホーム対応である。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力病院（まごころ病院）を利用している。水分、食事量、排泄等のチェックは「長寿ソフト」の温度板を利用し、一目で確認できる方法をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルに向けての対応方針は無いが、法人の特養、病院と段階に向けての移行が可能である。ホームが「終の栖」になるように、本人・家族との意識の共有を図っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体で「プライバシーの保護」について内部研修会を７月２５日に行い周知している。訪問時の様子も穏やかで家族的な言葉かけであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間（１９：００～２０：３０）入浴の希望者が５名居る。介護度が１～２なので、出来るだけ可能な限り継続していきたい。異性介助にこだわりない。家族の持ち込みでタバコ、酒も認めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を調理に使う。入所者の発案で買い物をしていて献立が変更になることが良くある。自給自足で余った食費で外食も出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別の入浴可否判断基準で日中・夜間で対応している。特に夜間は１：１の対応になるため、多少の困難はあるが職員の頑張りで継続されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りの指導をしてもらっている。一人暮らしだったため生活歴の情報が少ない人もあるが、近所の人が通院してきて、ホームに立ち寄った際に昔の様子の話をしてくれるので助かっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の小学校の行事に出かけたり、地区の芸能まつり等、来所だけでなく、ホーム側からも積極的に出かけて、地域との交流を持つ機会を作っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターンを職員は把握している。戸締まりとして１９：００～７：００は施錠している。日中はセンターを利用している。個々の行動パターンは表にして法人内に情報提供している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	計画的に通報訓練・召集訓練をしている。７月２８日夜間、地域の人たちも含めて年１回の「総合防災訓練」を実施した。休日のスタッフも参加して法人全体で行った。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	温度板を活用し、ケース記録としている。食欲の無い人には口当たりの良いプリン・ゼリー等で補っている。週１回法人の管理栄養士の指導・助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな柱時計、カレンダー、畳の部屋には大きな掘りゴタツがあり、足踏みミシン、自在鉤もあり昔懐かしい。食器は昭和３０年代の物を使用したり、細やかな心配りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の物品の持ち込みが少なく、ホームとしては家族に無理の無い範囲で協力が得られるように説明している。職員手作りの段ボールのタンスは入居者がよろこんで使っている。		